

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320126

研究課題名(和文) 日蘭関係史の再構築：オランダ語・現地語史料の併用による近世アジア海域史の視点から

研究課題名(英文) Revision of the History of Dutch-Japanese relations: From the viewpoint of Early modern Asian Maritime History

研究代表者

松方 冬子 (MATSUKATA, Fuyuko)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：80251479

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,700,000円、(間接経費) 4,110,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「オランダ語・現地語史料の併用による近世アジア海域史の一部と位置づける」という新しい立場から近世日蘭関係史研究を捉え直すことにより、従来の研究蓄積を継承するとともに、大きく発展させようとするを意図する。3回の出版準備会を経て、論文集の編集が進みつつある。論文集の編集方針としてはオランダ東インド会社文書をはじめ、刊本などに至るオランダ語史料の可能性を、日本史やアジア史の文脈でアピールすることを重視する。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research project is to revise the history of early modern Japan in relationship with the Netherlands from the viewpoint of early modern Asian maritime history based on Dutch and Asian languages. We intend to compile an edited work as a fruit.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学 日本史

キーワード：国際研究者交流 日蘭関係史 日本近世史 アジア史 オランダ語 外国語史料

1. 研究開始当初の背景

日本近世対外関係史研究においては、20年程前から、「東アジアの視点」の導入が叫ばれ、その中で日蘭関係史は保守的なイメージを与えられ、「対外関係史を貿易史に矮小化している」「ヨーロッパだけが外国であるかのように思っている」として、どちらかといえば批判の対象であった。

しかし、これまで「日蘭関係史」と呼ばれてきたものは、「オランダ語史料を用いた日本史」だと捉え返すことができる。歴史的事実としても、日本とオランダという二つの国家間で交渉が始まるのは、幕末である。それまでは、オランダ人が、ヨーロッパからアジア全域にまたがる活動圏の一つとして、日本を訪れ、貿易や交流をし、記録を残したというのが実態である。

本研究の参加者は、かつてライデン大学に留学し、ブリュッセイ氏の指導を受けた日本史・東南アジア史・インド史の研究者と、さらにその研究者の指導を受けた若手からなる。

前者は、2011年のブリュッセイ氏の退官を前に、2回の出版準備会を重ねた上で、それぞれ英語論文を執筆し、記念論文集 *Large and Broad: The Dutch Impact on Early Modern Asia: Essays in Honor of Leonard Blussé, Toyo Bunko Research Library 13* (Tokyo: The Toyo Bunko), forthcoming (以下、「英文論集」) を刊行するに至った(2010年3月刊行予定)。英文論集の執筆者は、留学時期、出身大学、現在の勤務先がまちまちであり、この論集以前に、必ずしも互いに知己であったわけではない。しかし、2回の準備会では活発な討議が交わされ、一つのを協力して作り上げる喜びを共有した。編集実務には、本研究の研究代表者があたり、分担者八百啓介が総論を執筆した。

本研究は、英文論集の実績と研究者ネットワークの上に成り立っている。

2. 研究の目的

本研究では、オランダ語史料に立脚することにより、その史料構造や内容から導かれる、東アジアのみならず、東南アジアやインド亜大陸も含めた、広いアジア(史料用語では「東インド」)の文脈の中で、日本近世(対外関係)史像を描くことを目的とする。日本語の論文集を出版することで、日本の歴史学界にオランダ語史料の可能性を紹介し、次代を担う若手を発掘し、育成に着手することを目指す。

3. 研究の方法

本研究では、以下の活動を行った。

第1に、2010年度に海外からの研究者も招いて、公開研究会を行った。

第2に、2011年に開催される I C A S (International Convention of Asia Scholars)における口頭報告を行なう(代表者・分担者を中心に2~3のパネル(小セッション)を組む)。

第3に、日本語の論文集(仮題『オランダ語史料

の可能性』)出版に向けての、準備会議ならびに論文執筆を行なう。

4. 研究成果

論文集『日蘭関係史をよみとく』(3巻本、臨川書店より刊行予定、刊行時期未定)の収録予定論文は以下の通りである。

(第1巻)

松方 冬子「オランダ人からみた「宮廷」—稲葉正則とその周辺を例に—」(仮)

鈴木 康子「天明期の長崎情勢と長崎奉行の特質—戸田出雲守氏孟を中心として—」

松井 洋子「出島をめぐる人々」(仮)

イサベル・ファン・ダーレン「オランダ通詞と誤訳事件—語の重み—」

パトリツィア・カリオティ「17世紀長崎における唐人」(仮)

福岡 万里子「幕末の日蘭関係と世界」(仮)

(第2巻)

島田 竜登「近世海域アジア世界とバタヴィア」(仮)

八百 啓介「出島オランダ商館の輸入砂糖と国内社会」

和田 郁子「インドの村から長崎へ—綿布から見る近世日本と世界のつながり」

石田 千尋「日蘭貿易における染織輸入」

マーサ・チャイクリン「江戸期日本の消費生活形成における日蘭貿易の重要性」

シンティア・フィアレイ「江戸時代にアジアとヨーロッパへ輸出された日本製品」

(第3巻)

フレデリック・クレインス「東インド会社による西洋医学伝授の試みと挫折」

益満 まを「京都における海外知識の受容と共有—辻蘭室を基軸として—」(仮)

勝盛 典子「蘭学と美術—北山寒巖・馬道良をめぐる—」(仮)

上野 晶子「江戸幕府の編纂事業における『厚生新編』と蘭学の『公学』化」

ウラン・レメリンク「江戸期日本における科学知識伝達の視覚化としての植物図」

西澤 美穂子「船の技術発展と日蘭関係」(仮)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計15件)

① MATSUKATA Fuyuko, “Fires and Recoveries Witnessed by the Dutch in Edo and Nagasaki: The Great Fire of Meireki in 1657 and the Great Fire of Kanbun in 1663”, *Itinerario* 13-3, Special Issue: Canton and Nagasaki Compared, 2013、172—187頁、査読有

② YAO Keisuke, “The Fundamentally Different Roles of Interpreter in the Ports of Nagasaki and Canton”, *Itinerario*, vol.37-3, Cambridge University

- Press, 2013, pp.139-150.査読有
- ③ Ryuto SHIMADA, “Economic Links with Ayutthaya: Changes in Networks between Japan, China, and Siam in the Early Modern Period”, *Itinerario: International Journal on the History of European Expansion and Global Interaction*, 37(3), December 2013, pp 92-104、査読有
- ④ Ryuto SHIMADA, “The Long-term Pattern of Maritime Trade in Java from the Late Eighteenth Century to the Mid-Nineteenth Century”, *Southeast Asian Studies*, 2(3), December 2013, pp. 475-497、査読有
- ⑤ 島田 竜登「近世ジャワ砂糖生産の世界史的位相」秋田茂編『アジアからみたグローバルヒストリー—「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ—』(ミネルヴァ書房, 2013年11月), 148~171頁、査読なし
- ⑥ 島田 竜登「海域アジアにおける日本銅とオランダ東インド会社」『アジア遊学』166, 2013年, 48~58頁、査読なし
- ⑦ 島田 竜登「近世植民都市バタヴィアの奴隷に関する覚書」『文化交流研究』26, 2013年、査読無、33-42頁
- ⑧ 島田 竜登「近世海域アジア貿易と日本銀—オランダ東インド会社を中心に—」『史学研究』277, 2012年、査読無、59-73頁
- ⑨ 松方 冬子「唐・蘭風書中有關鄭氏政權瓦解的訊息及其伝日経過」『台湾史研究』19-1, 2012年、査読有、177-196頁
- ⑩ MATSUKATA Fuyuko, “Reevaluating the “Recommendation to Open the Country”: The King of the Netherlands 1844 letter to the Tokugawa Shogun”, *Monumenta Nipponica*, 66-1, 2011, pp.99-122
- ⑪ 島田 竜登「歴史学はすでに「国境」をこえつつある—グローバル・ヒストリーと近代史研究のための覚書—」『パブリック・ヒストリー』8, 2011年、査読なし、1-13頁
- ⑫ 島田 竜登「世界のなかの日本銅」『日本の対外関係』6, 2010年、査読有、305-319頁
- ⑬ 島田 竜登「近世アジアの交易世界—オランダ東インド会社文書からの接近—」『歴史と地理』634, 2010年、査読有、1-14頁
- ⑭ 松方 冬子「1856(安政3)年の別段風説書蘭文テキスト」『古文書研究』69, 2010年、査読有、95-104頁
- ⑮ 松方 冬子「通訳と『四つの口』」『日本の対外関係』6, 2010年、査読有、235-250頁
- [学会発表] (計22件)
- ① MATSUKATA Fuyuko, “A Nephew of Caron: An Episode in the History of *Fusetsugaki*,” Symposium of Early Modern Japan Europe, アルザスヨーロッパ日本学研究所, 2013年12月14日(フランス国キーンツハイム市)
- ② Ryuto SHIMADA, “Chinese Junk Trade between Japan and Southeast Asia in the Early Modern Period”, Seminar on East Asian Maritime History: Asian International Trade Order and Chinese Merchants, 25 December 2013, Research School for Southeast Asian Studies, Xiamen University, China (中国アモイ市)
- ③ 八百 啓介「近世アジアの『境界』としての港市長崎」(国際シンポジウム『伝統時代東아시아의外交と邊境機構』)(2013年8月13日、韓国東国大学校)
- ④ Ryuto SHIMADA, “Global Trade in Ayutthaya during the Early Modern Period” Symposium: Muslim in Thai History, 23 November 2013, Tonson Mosque, Bangkok, Thailand (タイ国バンコク市)
- ⑤ 島田 竜登「書評: 金澤周作編著『海のイギリス史: 闘争と共生の世界史』(昭和堂, 2013年7月刊行)」, 大阪経済大学日本経済史研究所第73回経済史研究会, 2013年11月30日, 大阪経済大学(大阪府大阪市)
- ⑥ Ryuto SHIMADA, “Batavia as World Trade Centre?: A Key Trading Port in Indonesian, Asian and Global Perspectives, 1619-1799”, International Conference: Maritime East Asia in the 16th-18th Centuries: Sources, Archives, Researches: Present Results and Future Perspectives, 2 October 2013, “Orientale” University of Naples, Italy (イタリア国ナポリ市)
- ⑦ 島田 竜登「17世紀末アユッタヤー朝の国際貿易—イラン使節来朝の経済的背景—」, 第264回北海道大学東洋史談話会, 2013年10月18日, 北海道大学(北海道札幌市)
- ⑧ Ryuto SHIMADA, “Hirado and Beyond: British Trade with Japan in the Seventeenth Century”, International Conference: Japan and Britain, 1613: Parallels and Exchanges, 20 September 2013, The School of Oriental and African Studies, University of London, The United Kingdom (連合王国ロンドン市)
- ⑨ SHIMADA Ryuto, “Batavia and its Ommerlanden, 1619-1930”, The XVIth World Economic History Congress, 3 August 2012, Stellenbosch University (南アフリカ共和国ヨハネスバーグ市)
- ⑩ SHIMADA Ryuto, “Porcelain Token in Thailand: The Chinese Society and the Thai Global and Local Conditions in the Long Nineteenth Century”, The XVIth World Economic History Congress, 2 August 2012, Stellenbosch University (南アフリカ共和国ヨハネスバーグ市)
- ⑪ YAO Keisuke, “Sugar Supply and Importation by the Dutch East India Company to Japan during the 18th Century”, International Conference “Sugar and Slavery towards a New World History”, 2012/11/18, 東京大学東洋文化研究所(東京都文京区)
- ⑫ 八百 啓介「オランダ語史料に見る鄭芝龍関係書簡—2つの契約—(1628-1640年)」, Workshop on “Studies in Maritime East Asia in the Early-Modern Times: New Sources and Perspectives”, 2011年11月3日、中央研究院(中

華民国台北市)

- ⑬ YAO Keisuke, “The Private Trade and the Responsibilities of the Interpreters of the Dutch language in the First Half of the Nineteenth Century: Two Elements in the Transplantation of Western Science in Asia”, Workshop Rankaku and Nichiran-Koshōshi, 2011年4月26日、ライデン大学 (オランダ国ライデン市)
- ⑭ 島田 竜登「オランダ東インド会社の「奴隷」制度について」社会経済史学会九州部会・経営史学会西日本部会、2011年1月22日、福岡大学 (福岡県博多市)
- ⑮ 島田 竜登「近世アジアとオランダ東インド会社」大阪歴史教育研究会大会、2010年8月9日、大阪大学 (大阪府大阪市)
- ⑯ SHIMADA Ryuto, “Asian Sugar in the Global Context: A Survey of the Sugar Trade by the Dutch East India Company during the Eighteenth Century”, International Association of Historians of Asia, 25 June 2010, River View Hotel (シンガポール国シンガポール市)
- ⑰ YAO Keisuke, “Sugar Supply and Importation by the Dutch East India Company to Japan during the 18th Century”, International Association of Historians of Asia, 25 June 2010, River View Hotel (シンガポール国シンガポール市)
- ⑱ 八百 啓介「江戸時代の小判輸出」貨幣・天下統一—家康がつくったお金のしくみ—研究会、2011年3月14日、日本銀行貨幣博物館 (東京都中央区)
- ⑲ 松方 冬子「唐蘭風説書と鄭氏政権」東亜海域与台湾—慶祝曹永和院士九十壽誕國際學術研討会、2010年10月28日、台湾大学図書館 (華民国台北市)

[図書] (計 2件)

- ① 八百 啓介『砂糖の通った道—菓子から見た社会史—』、弦書房、2011年
- ② 松方 冬子編『別段風説書が語る19世紀—翻訳と研究—』東京大学出版会、2012年

[その他]

ホームページ等

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fuyuko/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松方 冬子 (MATSUKATA Fuyuko)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：80251479

(2) 研究分担者

八百 啓介 (YAO Keisuke)
北九州市立大学・文学部・教授
研究者番号：20212269

島田 竜登 (SHIMADA Ryuto)
東京大学・人文科学研究科・准教授

研究者番号：80435106

(3) 連携研究者

上野 晶子 (UENO Akiko)
北九州市立自然史歴史博物館・学芸員
研究者番号：50455565

クレインス フレデリック (CRYNS Frederik)
国際日本文化研究センター・准教授
研究者番号：90370139